HAKUOH NEWS VOL. 31
発行／白鷗大学　小山市駅東通り2-2-2　TEL:0285-22-1111　https://hakuoh.jp

2面 ハクオウスポーツ 他
3面 2024年度決算報告
4面 教員・公務員合格者数、就職実績 他

生の体験や出会いの「記憶」を大事に

学長　北山　修

本学のキャンパスは美しい自然に取り囲まれています。私自身、この風景に身を置いて清々しい空気を味わい、「ああここにいてよかった」と感慨に浸ることが少なくありません。この環境は、これでこそ健全な学びと遊び、創造する心が育まれるのだという思いを伴って、いつまでも私の目に焼き付き、心の記憶として日々生きていることを支えてくれているのです。

しかし近年は、生まれたときからネット、スマホ、AI、オンラインという、人と人との間をつなぐニューメディアの中で生きる人々が増加しています。私は生身の医療人、教育者として、これまで人と人の直接的出会いにこそ価値があると考えてきました。対して、直接的出会いがないニューメディアは否定的に捉えてきたのです。

ところが、今や自分はニューメディアとの戦いに大きく負けたと感じています。すでに私自身が、スマホを眺め、通販を利用し、ネットの宇宙で生きているのです。加えて昨今は、SNS上では誹謗中傷がまき散らされ、ネットではフェイクニュースが飛び交っています。こんな現実が、こんなに人間が軽視される時代がやってくるとは夢にも思いませんでした。

私の観察では、かつて「恥の文化」を持つ日本で多いとされていた、他人との出会いで人見知りしやすい傾向は、人に直接会うことのないまま物事が進むネットによって急速に解消されつつあります。今では、直接の出会いがなくとも人生の大半は生きてゆけるものになりつつあるのです。

私はそれでは空しいと思いますが、この空しさは今後ますます社会に蔓延していくでしょう。そんな今だからこそ、学生の皆さんに伝えたいことがあります。現代のニューメディアの海に片足を置きながらも、もう片足をぜひ白鷗大学という出会いの場に、このキャンパスという大地に置いてほしいのです。

人生で重要なのは、パソコンやスマホの中に残せる「記録」ではなく、生の体験や出会いの「記憶」です。ですからぜひ、授業やクラブ活動を通して、人と人との人間的交流や大学を囲む自然という「生の記憶」を心に取り入れてほしいと思います。このキャンパスは熱い人と人との出会いや、汗をかきたくなるような活動の可能性に満ちています。手を伸ばしさえすれば、誰もがそれらに届くのです。

今後はますます出会いの希薄な、血のつながりの薄い時代となるかもしれません。社会に出れば、きれいごとでは済まない現実や非人間的な出来事に直面し、立ち尽くしてしまうこともあるでしょう。そんなとき、大学での生々しい出会いや記憶は、「私」というものを堅持するための糧となるはずです。

そのためにも、仲間同士の関係や師弟関係を大事にして、それを機械的な記録ではなく生の記憶に残してください。大学生活を、血の通う出会いや触れ合い、熱い体験で満たしてください。皆さんの人生が、デジタル時代の空しさを恐れない、生の人間関係や豊かな記憶によって充実したものになることを願っています。

本キャンパスに「KITAYAMA COLLECTION」が完成

「KITAYAMA COLLECTION」と題した常設展示コーナーが本キャンパスの2階に完成した。一世を風靡したフォークグループ「ザ・フォーク・クルセダーズ」のメンバーとして活躍し、「帰って来たヨッパライ」や「戦争を知らない子供たち」など、数々の名曲を世に送り出したきたやまおさむ先生。展示には、作詞家としての直筆原稿や未発売レコード「イムジン河」、数々の賞状や記念盾が並ぶ。また、精神科医・精神分析学の研究者・教育者としての足跡も紹介され、学術書や講演資料、関連する表彰状なども展示されている。音楽と言葉、そして学問に情熱を注いできた、きたやま先生の多面的な業績を一望できる「KITAYAMA COLLECTION」は、学生たちに学びと遊びの喜び、そしてさまざまなことに挑戦する意志の大切さを伝える。

貴重な楽器も展示され、先生の軌跡が一堂に

野木町と包括連携協定を締結

野木町との包括連携協定調印式が3月24日、本キャンパス会議室で執り行われた。野木町とは以前より、野木町の各種審議会委員や生涯学習講座の講師として教員を派遣するなどの連携を重ねてきた。今回の協定は、さまざまな分野に関する包括的な連携を推進するとともに、地域の課題に迅速かつ適切に対応し、活力ある地域社会の形成と発展に寄与することを目的とするもの。今後は、地域振興、学校教育、生涯学習、研究・人材育成、健康・福祉、産業・雇用、環境、安全・安心などの分野でさらなる協力関係を築いていく。調印式で今田政成地域連携センター長は、「今後いろいろな面で連携を取りながら、両者が発展していけるようにしたい」と挨拶した。

本学が自治体と連携協定を締結するのは、栃木県小山市、茨城県結城市、栃木県栃木市、栃木県に続き5件目。

連携協定書を手にする真瀬宏子町長と
今田センター長（左）

学生と市長が語り合う「出張版 小山市民フォーラム」を本学で初開催

「出張版小山市民フォーラム in 白鷗大学」を11月15日に本キャンパスで開催した。本フォーラムは、市民と市長が直接意見を交わし、市政に市民の声を反映させることを目的とした小山市の取り組みで、通常は小山市役所で行われているもの。今回は、会場を白鷗大学に移して初の出張版として実施された。

当日は、本学の学生15名が参加し、「小山駅周辺の活性化」「子育てがしやすいまちづくり」「世代、文化、地域の交流」の3つのテーマに分かれて議論した。各グループは浅野正富市長や市の担当者と共に意見交換を行い、「駅前でパブリックビューイングを開催する」「小山ゆうえんちを復活させる」「市にスポーツチームを設立する」など、さまざまなアイデアが提案された。

浅野市長（前列左から４番目）、
本学の上岡理事長（同３番目）と参加者一同

HAKUOH SPORTS HAKUOH SPORTS HAKUOH SPORTS

女子バスケ部が2年連続日本一

女子バスケットボール部が第76回全日本大学バスケットボール選手権大会（インカレ）を制し、2年連続の全国制覇を果たした。春のトーナメント、秋のリーグ戦と合わせて2年連続大学3冠、さらに栃木県代表単独チームとして優勝した国民スポーツ大会（佐賀）も合わせると2024年度は4冠を達成した。12月8日の決勝の相手は6年連続となる東京医療保健大学。前半からリードを許し、苦しい展開が続くなか第4クォーターの残り3分で追いつき、再度離されながらも池田凜さん（教育学部2年）がブザービートを決めて延長戦へ突入。4度の延長の末、111－103で勝利し3回目の日本一を掴んだ。両チームで主力選手のファウルアウトが相次ぐ中、4年生として唯一最後までコートに立ち、決勝最多の27得点を挙げた佐藤多伽子さん（教育学部4年）が最優秀選手に選出された。

2月17日には本キャンパスで優勝祝賀会を行い、関係者約100名と共に快挙達成を祝った。主将としてチームを牽引した舘山萌菜さん（教育学部4年）は後輩たちに「自分がどれだけ成長できるかにフォーカスして活動すれば結果はついてくるのでがんばってほしい」と3連覇に向けてエールを送った。

激闘を制しトロフィーを掲げる選手たち

学生インタビュー企画「Students」Vol.1
男子バスケ部　佐藤涼成さん（教育学部4年）

今年、横浜ビー・コルセアーズの特別指定選手としてBリーグデビューを果たした佐藤涼成さん。大学日本代表としてもキャリアを重ね、世代を代表する一人として注目を集めている。

主将として臨む大学バスケ最後の1年。かける思いを聞いた。

―小山での生活はいかがですか？

学業やバスケットボールに集中できる良い環境だと思います。

―どんなキャンパスライフを送っていますか？

学生や先生などいろいろな方と関わることができて良い刺激になっています。所属するスポーツ健康専攻は、運動時の身体の仕組みを学んだり新しいスポーツに触れたりと多くの気づきや発見があります。トレーニングや計測機器も揃っており、スポーツを科学的に見られるようになりました。近くに河川敷があるので、早朝にチームメイトと一緒に走ったりトレーニングしています。そういった小さな積み重ねが自分に対する自信に繋がると思います。

―2023年のインカレ優勝時はどんな思いでしたか？

スタメン（ポイントガード）としての優勝は初めてだったので、「やっと自分の力で優勝できた」という手応えがありました。

―2年次からは大学日本代表としての活動も加わりましたね

海外では、まず歓声の大きさに衝撃を受けました。コート上での会話が聞き取れないくらいすごくて、試合後は耳がキーンとしていました。バスケットボールに対する「熱量」が日本とはかなり違っていると思います。

―Bリーグでの活動で得たものはありますか？

上には上がいることを痛感しました。大学生には通用したものがプロでは通用しない。大学バスケだけでは学べないような細かい部分まで見えるようになったというか、自分はもっとレベルアップできる余地が残っていると感じました。

―春の大会は惜しくも準優勝でしたが、秋・冬への意気込みをお願いします

今年は1年生から4年生まで力のある選手が揃っているので、みんなでパフォーマンスを出し切ってインカレで優勝したいと思います。試合会場に来てくれる方々をはじめ、SNSで応援してくれる皆さんにも喜んでもらえるよう、日々練習していきます。

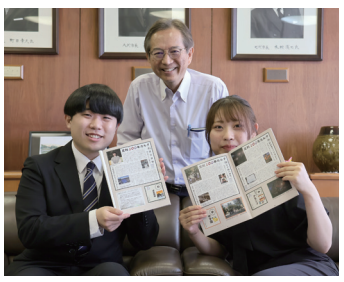
さとうりょうせい
2003年岩手県生まれ。福岡第一高校で1年次に日本一を経験。

下村ゼミ制作の「足利100年カルタ」を足利市に贈呈

下村健一ゼミ（経営学部）が取材・編集してきたコラム「足利市制100周年を記念して2021年5月に両毛新聞の連載企画として始まり、月刊情報紙に引き継がれて2025年4月に完結した。同市内の名所旧跡や飲食店などが50音順に紹介されている全44回の連載を収めた「総集編」が冊子化され、足利市に寄贈された。

6月20日に足利市役所で行われた贈呈式では、本学の渡邊理事長から早川尚秀市長へ目録が手渡され、同ゼミの實川尚真さん（経営学部4年）と室井遥花さん（経営学部4年）が市から大学への感謝状を受け取った。

下村教授は「学生を温かく迎えてくれた足利市民の皆さん、地元メディアの皆さんのご協力があってゴールすることができた。この冊子が皆さんへの恩返しとなれば嬉しい」と振り返った。


冊子を手に笑顔のゼミ生と下村教授（中央）

子どもたちを対象としたダンスコンテストと体操競技大会を開催

3月23日に「KAMOME CUP ダンスコンテスト」と「KAMOME CUP 体操競技大会」を開催した。この大会は、本学のダンス部や体操競技部が本学施設で行っている子ども向け指導の成果発表の場であると同時に、県内外からも出場者を募り、ダンスや体操競技の楽しさを伝えて競技人口の裾野を広げることを目的としている。

当日は、幼児から小学生を中心に、ダンスコンテストには約370名、体操競技大会には約110名の子どもたちが出場した。

大会の運営にあたっては、本学生に加え栃木県内外で主に教員として活躍する本学卒業生も審判や実行委員として参加し、子どもたちの晴れ舞台を支えた。

白鷗国際ホールで行われたダンスコンテスト

大行寺キャンパスの体操場

岩﨑ゼミが「佐野市の防災対策」について提案

自治体行政を研究する岩﨑忠ゼミ（法学部）が2月1日佐野市長らに「佐野市の防災対策」についてのプレゼンテーションを行い、「避難所でのプライバシー保護」「水ビジネスで作る災害に強い水道」など4グループで10の提案をした。

これは、岩﨑教授の前任校である高崎経済大学のゼミ生が、佐野市のキャッチコピーを提案し、採用されたことに始まったもの。それ以降、毎年ゼミ生が市の事業に参加し、市長にプレゼンテーションを行ってきた。2023年度は、本学の岩﨑ゼミ1期生が「中心市街地・中山間地域における空き家の利活用事業」に参加し、2024年度は、2期生が「佐野市の防災対策」についてプレゼンテーションを行った。

2024年度前期は、学内で専門書の輪読を通じて「防災対策の現状と課題」について全員で意見交換し、知識を吸収することに専念。その後、佐野市の特徴、現状と課題を把握したうえで、市からの地域防災計画等の詳細な資料提供を経て、質問・回答をするやりとりを何度も行った。

提案にあたっては、2019年10月の台風19号で被害を受けた佐野市の経験を踏まえた災害時の対応と、佐野市が「国際防災拠点さの」を打ち出しているため平時からの長期的視点にたった対応の2つの側面から提案を行うことにした。グループごとの意見交換、12月の中間発表、1月の学内最終発表を経て2月を迎えた。なかでも災害時に避難所となる体育館に冷房機を設置する提案は、2025～2026年度の2か年をかけて整備することになるなど実現性の高い提案という評価を受けた。

こうした自治体との交流は、学生にとって実践的な現場を学ぶ貴重な機会であるため今後、さらに発展させたいと岩﨑教授は考えている。

参加した金子裕市長（前列中央）、岩﨑教授（前列右から2人目）、ゼミ生ら

学校法人白鷗大学 2024年度決算報告

２０２４年度決算について掲載します。この決算書は法人全体のものです。

事業概要

学生、生徒、園児に快適な学修環境を提供するため、２０２４年度は以下の施設・設備整備を行いました。

施設面において、大学部門では、本キャンパスのＬＥＤ化工事、大行寺キャンパスでの空調設備改修、教室天井耐震化工事、トイレ改修を行いました。また、白鷗球場の人工芝張り替えを行っています。高等学校部門では、本校舎体育館冷房化工事、中学では新校舎建設に伴うグラウンド整備工事（２０２５年度も継続）、幼稚園部門では園舎ＬＥＤ化工事、トイレ改修工事を行いました。

設備面において、大学部門では、ＰＣ・モニタの更新、教室のＡＶ設備更新、無線アクセスポイント更新を行いました。

教育面においては、大学では、白鷗大学のミッション・教育目標・基本方針に即した２０２４年度～２０２８年度の５カ年における白鷗大学中期計画を策定し実行しています。『教学と経営とが一体となり、学修者が求める大学、社会、特に地域社会が求める大学を目指す』を今後５年間で白鷗大学が目指すべきビジョンとして掲げ、①大学運営、②教育、③学生支援、④研究、⑤社会・地域貢献、⑥国際交流、⑦教育研究環境整備の７項目、項目ごとに設定した17の戦略目標、戦略目標を達成するための79の行動計画や目標値、年度ごとの実施内容から成る計画となっています。

高等学校・中学校では、２０２４年度から新校舎で最新の施設・設備環境の下、授業が開始されております。

幼稚園では、ホームページのリニューアルを行い、教育内容や雰囲気など幼稚園の魅力を発信しています。

学校法人白鷗大学では、建学の精神を具現化した言葉『PLUS ULTRA（さらに向こうへ）』をスローガンに教育活動を行っています。

決算概要

事業活動収支において、収入面では学生生徒等納付金が前年度比29百万円増加、手数料収入が21百万円減少、経常費等補助金収入が23百万円減少、付随事業収入が10百万円増加、雑収入が１４０百万円減少となった結果、教育活動収入は、１４９百万円減少の８、０９４百万円となりました。一方、費用面は各部門における主に退職金の減少により、人件費支出が２６２百万円減少、教育研究経費支出が減価償却費増により２０３百万円増加、管理経費支出が１０４百万円増加となった結果、教育活動支出は、前年度比45百万円増加の８、１０６百万円となりました。

以上のことから、教育活動収支差額は、11百万円の支出超過（前年度比１９５百万円減）となりました。

また、教育活動外収支差額が２３１百万円となり、経常収支は前年度比２４１百万円減少し２１９百万円のプラスとなりました。

さらに、特別収支では、大学及び中学の資産処分差額の増加により、４０１百万円の支出超過（前年度比４３６百万円減）となりました。それらにより基本金組入前当年度収支差額は、前年度比６７８百万円減少し、１８２百万円の支出超過となりました。

資金収支において、収入の部では、学生生徒等納付金収入の増加があった一方、手数料収入、借入金収入、その他の収入が減となりました。支出の部では、教育研究経費支出の増加があった一方、借入金等返済支出、施設・設備関係支出・資産運用支出が減となりました。このことにより、２０２４年度の翌年度繰越支払資金は２、９２３百万円となり、前年度比２５０百万円の減少となりました。

貸借対照表としては、減価償却や高等学校・中学校新校舎完成に伴う旧校舎、構築物、教育研究用機器備品の除却等により、固定資産が７６１百万円減少しました。流動資産は、現預金の減少等により１６８百万円減少しました。一方、負債の部は、借入金の返済等により７４７百万円減少しました。

【 事業活動収支計算書 】2024年４月１日から2025年３月31日まで

事業活動収支計算書は、事業活動ごとの収支の内容と均衡状態を明らかにし、経営状態を表したものです。企業会計における「損益計算書」に近似したものです。2024年度基本金組入前当年度収支差額は、▲182百万円となり、前年度比678百万円の減少となりました。

（単位：円）

		科目	予算額	決算額	差異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	6,460,130,000	6,515,755,800	△ 55,625,800
		手数料	158,060,000	133,332,380	24,727,620
		寄付金	9,510,000	18,073,337	△ 8,563,337
		経常費等補助金	1,100,300,000	1,137,734,276	△ 37,434,276
		国庫補助金	497,450,000	534,895,300	△ 37,445,300
		地方公共団体補助金	602,850,000	602,838,976	11,024
		付随事業収入	18,250,000	21,938,946	△ 3,688,946
		雑収入	248,050,000	267,428,482	△ 19,378,482
		教育活動収入計	7,994,300,000	8,094,263,221	△ 99,963,221
		科目	予算額	決算額	差異
	事業活動支出の部	人件費	3,798,600,000	3,667,336,447	131,263,553
		教育研究経費	3,789,970,000	3,537,164,255	252,805,745
		管理経費	1,004,450,000	901,746,772	102,703,228
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計	8,593,020,000	8,106,247,474	486,772,526
	教育活動収支差額		△ 598,720,000	△ 11,984,253	△ 586,735,747
教育活動外収支	事業活動収入の部	科目	予算額	決算額	差異
		受取利息・配当金	233,000,000	248,480,439	△ 15,480,439
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	233,000,000	248,480,439	△ 15,480,439
	事業活動支出の部	科目	予算額	決算額	差異
		借入金利息	17,000,000	16,892,123	107,877
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	17,000,000	16,892,123	107,877
	教育活動外収支差額		216,000,000	231,588,316	△ 15,588,316
経常収支差額			△ 382,720,000	219,604,063	△ 602,324,063
特別収支	事業活動収入の部	科目	予算額	決算額	差異
		資産売却差額	0	29,999	△ 29,999
		その他の特別収入	200,000	45,375,344	△ 45,175,344
		特別収入計	200,000	45,405,343	△ 45,205,343
	事業活動支出の部	科目	予算額	決算額	差異
		資産処分差額	149,500,000	447,267,273	△ 297,767,273
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	149,500,000	447,267,273	△ 297,767,273
	特別収支差額		△ 149,300,000	△ 401,861,930	252,561,930
〔予備費〕			(41,000,000) 9,000,000	—	9,000,000
基本金組入前当年度収支差額			△ 541,020,000	△ 182,257,867	△ 358,762,133
基本金組入額合計			△ 848,900,000	△ 774,004,922	△ 74,895,078
当年度収支差額			△ 1,389,920,000	△ 956,262,789	△ 433,657,211
前年度繰越収支差額			△ 13,085,871,554	△ 13,085,871,554	0
翌年度繰越収支差額			△ 14,475,791,554	△ 14,042,134,343	△ 433,657,211
（参考）					
事業活動収入計			8,227,500,000	8,388,149,003	△ 160,649,003
事業活動支出計			8,768,520,000	8,570,406,870	198,113,130

主として入学検定料です。

主として大学への補助金です。

主として高等学校、中学校、幼稚園への補助金です。

減価償却費を含んでいるため資金収支計算書と異なります。

主として大学の施設設備補助金です。

【 貸借対照表 】2025年３月31日現在

貸借対照表は、学校法人の期末における資産と負債・基本金・消費収支差額の状況を表示して、財政状態を表しています。資産総額から負債総額を差し引いた「純資産」は前年度より182百万円減少し、35,854百万円となりました。

（単位：円）

科目	2024年度末	2023年度末	増減
資産の部			
固定資産	34,594,809,202	35,356,042,422	△ 761,233,220
有形固定資産	31,489,139,150	32,516,918,131	△ 1,027,778,981
土地	5,883,406,974	5,883,406,974	0
建物	21,773,652,082	22,818,574,321	△ 1,044,922,239
構築物	817,888,174	914,072,344	△ 96,184,170
教育研究用機器備品	1,174,561,929	1,253,008,220	△ 78,446,291
管理用機器備品	313,448,889	329,387,063	△ 15,938,174
図書	1,295,405,999	1,296,980,543	△ 1,574,544
車両	17,886,603	21,488,666	△ 3,602,063
建設仮勘定	212,888,500	0	212,888,500
特定資産	2,261,373,600	2,165,572,410	95,801,190
退職給与引当特定資産	1,061,018,000	1,064,849,910	△ 3,831,910
減価償却引当特定資産	1,200,355,600	1,100,722,500	99,633,100
その他の固定資産	844,296,452	673,551,881	170,744,571
借地権	288,327,257	288,327,257	0
その他	555,969,195	385,224,624	170,744,571
流動資産	5,875,177,829	6,043,775,399	△ 168,597,570
現金預金	2,923,723,576	3,174,363,498	△ 250,639,922
有価証券	2,622,656,550	2,403,172,198	219,484,352
その他	328,797,703	466,239,703	△ 137,442,000
資産の部合計	40,469,987,031	41,399,817,821	△ 929,830,790
負債の部			
固定負債	2,508,175,296	2,966,621,306	△ 458,446,010
長期借入金	1,440,000,000	1,920,000,000	△ 480,000,000
退職給与引当金	1,068,175,296	1,046,621,306	21,553,990
流動負債	2,107,806,870	2,396,933,783	△ 289,126,913
短期借入金	480,000,000	480,000,000	0
前受金	1,258,683,269	1,234,958,269	23,725,000
その他	369,123,601	681,975,514	△ 312,851,913
負債の部合計	4,615,982,166	5,363,555,089	△ 747,572,923
純資産の部			
基本金	49,896,139,208	49,122,134,286	774,004,922
第１号基本金	49,406,139,208	48,632,134,286	774,004,922
第４号基本金	490,000,000	490,000,000	0
繰越収支差額	△ 14,042,134,343	△ 13,085,871,554	△ 956,262,789
翌年度繰越収支差額	△ 14,042,134,343	△ 13,085,871,554	△ 956,262,789
純資産の部合計	35,854,004,865	36,036,262,732	△ 182,257,867
負債及び純資産の部合計	40,469,987,031	41,399,817,821	△ 929,830,790

土地と図書以外の有形固定資産については、減価償却累計額を控除して表示しています。

主として旧校舎、構築物、教育研究用機器備品の除却による減少です。

大学施設工事、中学グラウンド工事の前払金です。

在職教職員の退職金に備えるものです。

減価償却をする有形固定資産に備えるものです。

主として、保険積立金です。

退職者に対する未収入金の前年度比減です。

借入金のうち、一年以内の返済額は短期借入金へ振替えています。

借入金のうち、2025年度の返済額です。

固定資産の維持取得に係わる基本金です。

必要な運転資金維持に係わる基本金です。

【 資金収支計算書 】2024年４月１日から2025年３月31日まで

資金収支計算書は、１年間の収入･支出毎の資金の流れの総額を表したものであり、企業会計における「キャッシュフロー計算書」に近似したものです。2024年度の翌年度繰越支払資金は2,923百万円となり、前年度比250百万円の減少となりました。

収入の部

（単位：円）

科目	予算額	決算額	差異
学生生徒等納付金収入	6,460,130,000	6,515,755,800	△ 55,625,800
手数料収入	158,060,000	133,332,380	24,727,620
寄付金収入	9,710,000	29,722,366	△ 20,012,366
補助金収入	1,100,300,000	1,149,064,276	△ 48,764,276
国庫補助金収入	497,450,000	546,225,300	△ 48,775,300
地方公共団体補助金収入	602,850,000	602,838,976	11,024
資産売却収入	0	30,000	△ 30,000
付随事業・収益事業収入	18,250,000	22,081,216	△ 3,831,216
受取利息・配当金収入	233,000,000	246,191,619	△ 13,191,619
雑収入	248,050,000	283,589,642	△ 35,539,642
前受金収入	1,092,000,000	1,258,683,269	△ 166,683,269
その他の収入	2,009,692,147	1,979,182,651	30,509,496
資金収入調整勘定(注)	△ 1,414,085,349	△ 1,447,861,182	33,775,833
前年度繰越支払資金	3,174,363,498	3,174,363,498	0
収入の部合計	13,089,470,296	13,344,135,535	△ 254,665,239

主として2025年度入学者の入学金、授業料等の学生納付金です。

主として特定資産の償還収入です。

支出の部

科目	予算額	決算額	差異
人件費支出	3,798,600,000	3,645,725,058	152,874,942
教育研究経費支出	2,613,870,000	2,565,856,158	48,013,842
管理経費支出	830,850,000	739,623,282	91,226,718
借入金等利息支出	17,000,000	16,892,123	107,877
借入金等返済支出	480,000,000	480,000,000	0
施設関係支出	675,100,000	509,672,592	165,427,408
設備関係支出	202,350,000	173,838,717	28,511,283
資産運用支出	1,686,000,000	1,800,934,278	△ 114,934,278
その他の支出	785,075,514	823,503,638	△ 38,428,124
〔予備費〕	(45,000,000) 5,000,000	—	(45,000,000) 5,000,000
資金支出調整勘定(注)	△ 457,318,474	△ 335,633,887	△ 121,684,587
翌年度繰越支払資金	2,452,943,256	2,923,723,576	△ 470,780,320
支出の部合計	13,089,470,296	13,344,135,535	△ 254,665,239

主として高等学校・中学校新校舎の分です。

特定資産の償還に対する代替購入によるものです。

（注）資金収入調整勘定及び資金支出調整勘定について

学校法人会計における資金収支計算の目的は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容、当該会計年度における支払資金の収入及び支出とそのてん末を明らかにすることとされています。そのため収入・支出ともに調整勘定が設けられています。なお、資金収入調整勘定には期末未収入金及び前期末前受金、資金支出調整勘定には期末未払金及び前期末前払金を計上しています。

1331人を迎えた入学式

2025年度の入学式が4月2日に大行寺キャンパスで執り行われ、大学院生・学部生合わせて1331人が入学した。式典会場となった第一体育館は2階席まで来場者で埋まり、多くの保護者が新入生の門出を見守った。また、インターネットによるライブ配信でも公開され、自宅などからも画面越しに参加して晴れの日を共に祝福した。

式典で北山学長は「デジタル時代において、情報は記録され、いつでも再生可能ですが、本当に大切なのはプレイバックできない『記憶』です。仲間との触れ合いや師弟関係の中で生まれる経験、豊かな居場所の『記憶』で心の中が満たされることを祈ります。時代の空しさを恐れず、生の人間関係を深めながら、充実した大学生活を送ってください」とエールを送った。また、ハワイ大学前総長のデイビット・ラズナー先生、北海道日本ハムファイターズCBOを務め、本学教員でもある栗山英樹先生からのビデオメッセージが披露され、新入生に向けた温かいメッセージが届けられた。さらに、学生生活を支える教職員の紹介が行われ、ハンドベル部による祝典演奏が式に華を添えた。最後に学生リーダーの先導のもと学歌を斉唱し、厳かな雰囲気の中で入学式は幕を閉じた。

当日は雨が降る時間帯もあり傘が欠かせない一日となったが、式典後には入学記念のフォトスポットに列ができ、記念撮影を楽しむ新入生たちの姿が見られた。

式典後の第一体育館前の様子

（表1）在籍学生数　（人）

	学部	学科・専攻	1年	2年	3年	4年	総数
大学	経営学部	経営学科	481	448	526	478	1,933
	法学部	法律学科	305	311	311	323	1,250
	教育学部	児童教育専攻	263	269	225	247	1,004
		スポーツ健康専攻	154	137	156	141	588
		英語教育専攻	63	60	52	65	240
		心理学専攻	60	61	59	55	235
	合計		1,326	1,286	1,329	1,309	5,250
大学院	経営学研究科	経営学専攻	0	1	-	-	1
	法学研究科	法律学専攻	5	6	-	-	11
	合計		5	7	-	-	12
総計			1,331	1,293	1,329	1,309	5,262

（2025年5月1日現在）

（表2）教職員数　（人）

	教員数	職員数	総合計
専任	125	96	221
専任以外	122	19	141
合計	247	115	362

（2025年5月1日現在）

白鷗球場の内野人工芝張り替え工事が完了

学内施設の充実を目的に、白鷗球場の内野人工芝をリニューアルした。同球場は2014年2月の竣工以来、主に硬式野球部の活動拠点および公式戦の試合会場として使用されてきたが、長年の利用により人工芝の劣化が目立つようになったため、今回初めての張り替え工事を実施した。

新たに敷設した人工芝は、プロ野球の球場でも採用されている最新技術が取り入れられたもので、選手たちがより安全に、そして最高のパフォーマンスを発揮できる環境が整った。

生まれ変わった白鷗球場

学生の創造力が光る！ ロート製薬との産学連携インターンシップ発表会

本学と、医薬品やヘルスケア製品を取り扱うロート製薬株式会社関東支店は、約200メートルの近距離にあり、地の利を活かした産学連携プロジェクトとして独自のインターンシップを初めて実施。本プログラムは、ドラッグストア業界の現状や課題を学びながら、地域のドラッグストアにより多くの人が足を運びたくなるような施策を学生が考案するもので、11月から3月にかけて全5回にわたり行われた。

企業関係者から質問を受ける手塚さん

最終日の3月13日には、学生たちがこれまでの学びを活かし、ビジネスに活用できるアイデアをプレゼンテーションする最終発表会を開催。5名の学生が登壇し、売場の魅力向上や効果的なプロモーション方法に関する案を発表し、企業関係者と質疑応答を交わすことで、より実践的な学びを深める貴重な機会となった。

インターンシップに参加した手塚千裕さん（法学部3年）は、受験生をターゲットとした目薬の商品デザインや販売イメージ、キャッチコピーを提案。ユニークな発想に会場から声が上がる場面も見られた。発表を終えた学生には、ロート製薬株式会社より「修了証」が手渡された。

就職率 全学部合計99・4％

公務員 138人が合格

過去最多 公立学校教員 257人が合格

うち4年次合格者は160人

2024年度卒業生の就職率は99・4％と、引き続き高水準を維持した。キャリアサポートセンターによる継続的な支援のもと、多くの学生が希望する企業への就職を実現し、栃木県内外を問わず、全国各地の企業で活躍している。

キャリア支援行事は毎月開催されており、参加学生の中にはリピーターも多い。顔なじみとなった学生同士が励まし合いながら就職活動に取り組む姿も見られる。そうした支援行事の一つに、12月に本キャンパスで開催された「就職活動報告・相談会」がある。

このイベントでは、内定を獲得した4年生が、自身の就職活動の進め方や試験内容、対策方法などを後輩に向けて紹介。就職活動を控える学生が参加し、延べ参加者数は200人に達した。当初は緊張した面持ちだったものの、同じ学生という立場からすぐに打ち解け、企業就職を目指す学生にとっては実体験に基づくアドバイスを直接聞ける貴重な機会となった。

一方で、公務員や教員を志望する学生も多く、2024年度の公務員試験では現役合格者138人を数えた。内訳は、栃木県庁などの県・市町村職員が79人、警察官36人、公立保育士8人、消防官6人、自衛官7人、国家一般職1人、刑務官1人である。

さらに、公立学校教員採用試験では、新卒160人、既卒97人の合計257人が合格。4年次合格者数および合格者総数ともに過去最多を更新した。内訳は、小学校教諭200人、中学校教諭46人、高等学校教諭3人、特別支援学校教諭8人となっている。

■公務員採用試験現役合格者の推移

種別		2022年度	2023年度	2024年度
行政職	国家公務員	11人	5人	2人
	県庁職員	11人	14人	21人
	市町村職員	57人	67人	58人
公安職	自衛官	7人	4人	7人
	警察官	35人	24人	36人
	消防官	10人	6人	6人
資格職	公立保育士（県含む）	7人	1人	8人
	合計	138人	121人	138人

■公立小中高特支教員採用試験合格者数の推移

年度	2022年度		2023年度		2024年度	
新卒/既卒	新	既	新	既	新	既
小学校	117人	63人	128人	51人	140人	60人
中学校	16人	15人	15人	15人	17人	29人
高等学校	1人	0人	1人	1人	2人	1人
特別支援学校	1人	6人	1人	10人	1人	7人
小計	135人	84人	145人	77人	160人	97人
合計	219人		222人		257人	

教員人事

【新任】（2025年4月1日付）

経営学部
教授　狐野　由久
准教授　藤野　裕
講師　長井景太郎

法学部
教授　阿部　徳幸
准教授　棟久　敬
助教　石原　悠大

教育学部
助教　船橋　大介

【昇格】（2025年4月1日付）

経営学部
准教授　高島　幸成

法学部
教授　松原　和彦

教育学部
教授　後藤　学
教授　中村三緒子
准教授　柵瀬　宏平
准教授　島埜内　恵
准教授　鄭　暁琳

【退職】（2025年3月31日付）

経営学部
教授　髙橋　節子
准教授　藤浪　英也
講師　簗田　香織

法学部
教授　荒木　教夫
教授　伊藤　悟
准教授　清水　潤

教育学部
助手（実習講師）　林　典子

新たに2名が名誉教授に

2024年度に白鷗大学名誉教授の称号を授与された先生は次のとおり。

髙橋　節子（経営学部）
荒木　教夫（法学部）

お悔やみ

名誉教授
黒田　勉　74歳
（2024年12月逝去）

第3代法学部長
松尾　英夫　91歳
（2024年1月逝去）

第2代法科大学院長
土本　武司　89歳
（2024年5月逝去）

名誉教授
冨田　英也　78歳
（2025年6月逝去）

元短大幼児教育科教授
松山　佽子
（2024年2月逝去）

＊役職・学年は当時のもの。